



# みせん

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パーク  
ボランティアの会

第95号

発行日  
令和6年3月1日

## ◇ 目 次 ◇

- |                                 |                       |
|---------------------------------|-----------------------|
| P-2 : 入浜池補足調査 ②                 | P-17 : 弥山登山道清掃作業      |
| P-7 : 自主観察会④自然観察下見              | P-18 : 自主観察会(6)新春弥山登山 |
| P-7 : 公募観察会③自然観察                | P-21 : 投稿 ・宮島町町家通りの行灯 |
| P-12 : 自主観察会(5)島外調査元宇品          | P-21 : 編集後記           |
| P-14 : 会員の集い・部会打合せ<br>会員研修会・懇親会 |                       |

## 「 宮島のシカ 」



2023. 12 の研修会用に会報誌みせんの表紙写真をまとめる中で宮島のシンボルといえるシカが登場していないことが判明。手持ちの写真の中から 2019. 3. 16 鷹ノ巣高砲台跡地清掃・整備作業へ行く途中の入浜池方面との三叉路のところで一瞬現れ私と目が合い撮影。角を切られていないので街中に出ず野生に近いのかと思った。

※「巖島は約 6,000 年前縄文海進により本州と離れ離島化したが、その際に本土側の鹿の個体群から分断したものが宮島の鹿の起源であると考えられている。すべてニホンジカ (*Cervus nippon*) になる。分子遺伝学的研究により、宮島の鹿は対岸の広島と山口の個体群に近い宮島固有の歴史を持つ個体と裏付けられている」

※ウィキペディアより転記 ( 撮影日 : 2019. 3. 16 麻生 )

# 入浜池補足調査 ②

日時：11月 4日(土) 9:00~12:00

天候：曇り

行事推進委員：大西 小川 小林(み) 穂井田  
松田 元広 横路

参加者：大西 小川 小林(颯) 小林(み) 穂井田  
松田 元広 山本(昌) 横路 以上 9名

## 【水質調査】横路 晃

調査班：小林(颯) 横路

池の水位は前回より低下しています。測定点の山側での中央点やD点で水位が標識杭まで達しておらず、杭の位置での水の採取が出来ませんでした。杭から約2mの地点で採取しました。

測定結果は下表の通りです。

R5.11.4(土)測定	満潮 (14時08分) 潮位 295cm				干潮 (6時58分) 潮位 84cm			
	13:25	13:15	13:35		13:45	13:55	14:10	14:25
調査時刻								
測定地点	A	B	中央付近(2m)	C'	D(付近)	E	F	海水
杭. 水位(cm)	-21	-15	-	-	-	-	-18	-
水深 (cm)	4	8	1		3	2	2	
塩分濃度(%)	2.65	2.88	2.85		2.90	2.95	2.89	2.80
PH	6.5	7	7		7			
COD	3	3	4		4	6	7	1
池水の状況	※中央点、D点で水位が標準杭に達していない為、杭から2~3mの地点で測定水を採取した。 ※(F地点)流/出入の水流なし				山水の 流量	10ℓのバケツが満水になる時間:19秒		

### ・ PH について

A点でやや酸性ですが全体にわたって中性となっています。

### ・ COD について

3~7で汚れは少ないようです。

### ・ 杭の水位について

山側の地点で水位が杭まで達していませんでした。今夏の8~10月の降水量が少なく、山水の流量も少なくなっています。

海への排水路に土砂が堆積していない為、満潮時に海水の流入する回数が多くなっています。

### ・ 塩分濃度について

測定結果は塩分濃度が全測定点で2.65~2.95と高く、海水の塩分濃度と同程度となった。今日までの近い時点での海水の流入/流出が有ったと思われる。その上、今年の夏季の8月~10月の降水量が平年より少なくなっています。湧水も少なくなっていると思われます。

●海水の流入の可能性を潮位が360cm以上とすると、9月末から10月末までの満潮時に別表-1の通り、18回の流入が有ったと考えられます。

●降水量については、先月号の参考資料に示した大竹市の降水量表の以後の10月も17.0mmと少なくなっています。真水の湧水が少なかった為、池の塩分濃度が薄まらなかったと思われます。

### ・ 《所見》

潮位表から今回の測定の直前の海水流入は、10月30日の383cmと考えられる。入浜池の塩分濃度が海水と同じ値となっているが、それ以後の真水の流入や湧水が少ない為と思われる。

長期間にわたり塩分濃度の高い状態が続いていることは淡水に生息する昆虫にとっては厳しい環境となっている。しかし、海水の流入を止めると降水量が少ない状態が続く場合には池が干上がって、入浜池の存在が無くなる恐れがある。監視を続けながら、現状での整備を行う事が望まれます。

別表-1 (広島港の潮位表による・令和5年)

月 / 日	満潮時の潮位	流入回数
9/27~10/3	363~391cm	10回
10/15~10/17	362~367cm	3回
10/27~10/30	364~383cm	5回

※ 連続して潮位が360cmを越えた日

## 【植物観察】 山本 昌生

調査班：小川、小林(み)、山本(昌)

入浜池のヒトモトススキが昔に比べて衰退しています。2022年以降その原因と対策を検討するための基礎調査を行っていますので、随時報告します。今回は次の2つの調査を行いました。

## 1. 親株周りの実生の生育状況

2023年4月1日に親株の周りに設置したネットB内のヒトモトススキの実生の生育状況を調査しました。前回調査の9月16日と比較すると株同士の競合のためか、株数が10株から6株に減少していました。葉の長さにはほぼ変化があまりありませんでしたが、大きくなった個体の分けつ数が増えていて、最大15まで増えた株もありました(表1、写真1,2)。その結果、分けつ数の平均が2から4.3に増加しました。このネットBは高さが低いため、シカがネットの上部からヒトモトススキの葉を食害していました(写真3)。今後、上からの食害を防ぐ工夫が必要と感じました。

## 2. 新たに苗を移植

2023年4月1日にヒトモトススキの苗を植えて、その周りにネットを設置しましたが、植えた苗が枯れました。そこで、そのネット(前回の報告でネットAとしていたネット)を今回撤去し、ネットBの近くに移設し、ネットCと名付け、その中に植物公園で育てていた苗を植えました。この苗は3つの栽培条件で育てた苗です(表2、写真4)。今後の成長を観察します。

表1. シカよけネットB内の実生の生育調査結果

株No.	分けつ数*	最大葉身長(cm)
1	1	15
2	5	34
3	1	21
4	15	57
5	2	26
6	2	23

株Noは集団の左の株から1番とした。

(2023.11.4)調査

\*：親株を含む

株の最大葉身長平均 29.3cm

表2. シカよけネットC内に2023年11月4日に移植したヒトモトススキの株のデータ

栽培方法	株No.	分けつ数 (親株を含む)	葉身長(cm)			備考
鉢で腰水なし	A-1	1	48			根は鉢から出していない。
	A-2	3	46	41	17	
鉢で腰水あり	B-1	2	53	51		根は鉢から大きく出ている。特にB-2株の根は非常に多く、スポンジ状の根が多かった。
	B-2	3	47	29	24	
鉢なしでバケツ栽培	C-1	1	50			今回の中では、葉色も薄く貧弱な感じ。根はBに比べて少なかった。
	C-2	4	35	30	25	

2021年12月4日に入浜池で採取したヒトモトススキの高芽を植物公園で栽培した。栽培方法を3種類とした。

写真1. ネットB内の苗の生育状況  
(撮影 2023.9.16)



写真 2. ネット B 内の苗の生育状況  
写真 1(9月16日)から約1か月半後  
(撮影 2023.11.4)



写真 4. ネット C 内の新たに移植した6本の苗  
(撮影 2023.11.4)



写真 3. シカに葉の先端を食害された  
ネット B 内のヒトモトスキ  
(撮影 2023.11.4)

【野鳥観察】 元広 修爾

調査班：穂井田 元広

天候は、曇りでした。穂井田会員と私の2名で、入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の3地点で調査を行いました。

冬鳥たちとの出会いが期待されましたが、本日の調査は午後からの調査であったため、出会えた野鳥は少なかったです。そのような状況の中でも、冬鳥であるジョウビタキとセグロカモメに出会えたことは嬉しい出来事でした。

ジョウビタキは、全国各地の平地や林などに飛来します。今回の調査では、林の中で出会いました。人家の庭先や公園でも見かけます。オスは鮮やかな赤橙色が目立ちますが、メスは灰褐色です。オスに比べるとメスは地味ですが、そのかわいい目のせいで、とても人気があります。

セグロカモメは全国の沿岸部や河川などに飛来します。

全体としては、下表のとおり 11 種の野鳥たちに出会うことができました。ホオジロとミサゴは松田会員からの情報提供でした（ありがとうございました）。これまでの調査と比較すると、出会えるミサゴの数が減っているため、今後も注視していく必要があると感じました。

(参照文献：『日本の野鳥 650』平凡社刊)

## 入浜 野鳥補足調査

2023年11月4日 曇り 13:30~15:00

種名	数	種名	数
コサギ	2	ジョウビタキ	3
アオサギ	1	ホオジロ	3
ミサゴ	1	キジバト	2
トビ	1	ヒヨドリ	5
カワウ	1	セグロカモメ	1
ハシボソガラス	2		計11種

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥

季節区分は『ひろしま野鳥図鑑』（2002年）  
日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊」  
による。

## 【昆虫観察】 松田 賢

(11月のトンボ類など)

◆日時：2023年11月4日 10:10~12:02

くもり，調査時気温：22~24℃，風：弱。

◆結果概要：自主調査を含めて久しぶりの11月調査となりました。

ラインセンサス調査で確認できたトンボ類は、予想どおり大半がリスアカネで個体数構成の7割近くにのぼり、ナツアカネ、アキアカネ、タイリクアカネ、キトンボを合わせたアカネ属が全体の9割以上を占めました。オオアオイトトンボ、オニヤンマを合わせて合計4科7種29個体という結果でした。リスアカネは交尾や産卵など活発な繁殖行動も見られ、これまでと変わらず、入浜池の秋の優占種となっていました。キトンボはオス1頭のみなのわばり占有行動が見られ、入浜池調査でははじめての出現となりました。本種は飛翔力に優れ、秋遅くまで見られるアカトンボで、他所から飛来したものと思われるが、調査を11月に実施した成果ともいえそうです。

この時期、池の周囲では開花植物が乏しく、咲き残ったレモンエゴマやカンコノキの花に集中するように、多数の訪花昆虫が訪れていました（ヤマ

トシジミ、ウラギンシジミ、キアシナガバチ、セグロアシナガバチ、クロスズメバチ、キイロスズメバチなど）。また入浜のハマゴウ群落では、広島県の絶滅危惧Ⅱ類のヤマトマダラバッチが健在であることが確認されたほか、外来種のモンクチビルテントウが確認されました。本種は東南アジアに生息する体長3mmほどの小型のテントウムシで、日本では1998年に沖縄で記録され、その後、九州や本州でも確認されて分布拡大が目立つようになり、2022年には四国でもはじめて記録されました。中国地方でも各県で相次いで報告されているところですが、侵入経路および在来種や生態系への影響などはよくわかっていません。廿日市市の本土側では定着も示唆されていますが、宮島での記録ははじめてと思われます。

今後も宮島の生物の現状や変化を見つめていきたいと思います。



連結態で静止するリスアカネ（前がオス）



池の上でホバリングするキトンボのオス



地表近くに止まって周囲を見渡すキトンボのオス



ナツアカネのオス



ヤマトマダラバッタのメス。砂粒さえも表現するかのような砂浜に紛れる色・模様に関心するが、ハマゴウの落葉落枝上でも目立たない。

採集されたモンクチビルテントウ。在来種のヨツボシテントウに似るが、背面の2対の黒紋の大きさと形、腹面の色で見分けることができる。

(写真と文：松田 賢)

## 自主観察会④自然観察下見

日時：11月18日(土) 9:00～12:00

天候：曇り時々雨

行事推進委員：佐渡 舛田

参加者：大西 北野 河野 小林(勗) 末原 穂井田  
増田 舛田 山本(昌) 横路 以上 10名



解説者：植物観察は山本会員（1班リーダー）と北野会員（2班リーダー）、史跡等は佐藤会員、紅葉谷庭園砂防等は末原会長

今回の観察会は時間とコースが短く気軽に参加できたためか、公募参加者の服装や年齢は様々でした。当会の解説者（インタープリター）のもと、宮島の自然と歴史と景観に触れることができ、全員が楽しく過ごせたと思います。私は2班の最後尾、スニーカーのつもりで歩きながら記録しました。聞き逃した解説も多々ありますが、残ったメモから印象深かった解説を抜き出し、当日を振り返ってみました。

### 【9:30 開会】

開会あいさつ、解説者紹介のあと、公募参加者は2班に分かれ、出発となった。

### 【10:00 誓真釣井（せいしんつるい）】

栈橋前の路地の奥に本日一つ目の釣井がある。誓真釣井の解説の後で、宮島観光登録ガイドでもある佐藤会員から「初めての道を歩くときはなぜだろうと疑問を持ちながら歩くと楽しいですよ。」と貴重なアドバイスがあった。



## 公募観察会③自然観察

日時：11月25日（土）9：30～12：30

コース：栈橋前～山辺の古径～紅葉谷公園

（時間とコースは募集チラシから若干変更あり。）

天候：曇り

行事推進員：佐渡 舛田

参加者：岩崎 小川 北野 河野 小林(勗) 佐藤  
末原 二神 舛田 山本(昌) 横路 以上 11名  
新入会員研修生 1名

環境省：山脇自然保護管

公募参加者：26名

配布資料：宮島の案内絵図（2019 宮島観光協会発行）、作成資料（ルート図、誓真釣井、紅葉谷川庭園砂防事業の解説）

### 【10:15 山辺の古径】

市街地を抜けると山裾を歩くようになる。石垣に垂れるツタやフェンスの向こう側の植物を観察しながら、シカの採食圧が宮島の植物にどんな影

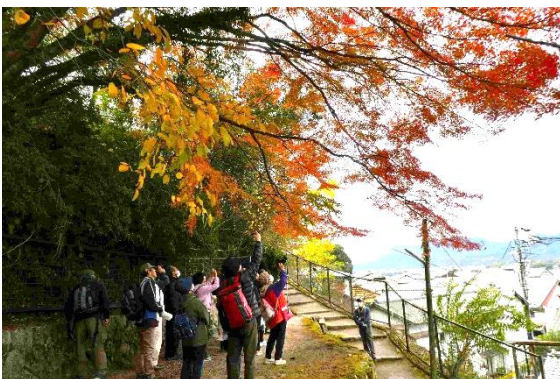
響を及ぼしているか、北野会員から解説があった。



### 【10:30 眺望良】

この場所から市街地を見渡すと、古い参道や昔の埋め立てラインが見えてくる。宮島には文化財保護法などによる土地利用や建築物の規制があり景観が保護されていると、末原会長から解説があった。

雲間から時折薄日が差すようになると、照らされた紅葉は本当にきれいだった。



【10:45～11:15 誓真大徳頌徳碑（せいしんだいとくしょうとくひ）】

休憩後、誓真さんの功績と宮島土産の杓子などについて佐藤会員から解説があり、宮島の生活や産業の歴史に触れることができた。



### 【11:20 ウグイス歩道手前】

大聖院を含め厳島神社一帯を見渡せる場所では史跡の解説があった。

クストイゲの木にある棘を観察したあと、北野会員がその場で棘のイラスト2つを描き、イガ栗の棘はどちらか当てるクイズを出題。2班全員しばし考え、植物の不思議に感心しきりであった。

### 【11:30～11:55 紅葉橋】

紅葉谷入口の赤い「紅葉橋」を渡るときはいつもワクワクするが渡ることなく、橋の手前で末原会長の解説が始まった。紅葉谷は、昭和20年土石流災害後の3年に渡る復旧工事で、コンクリートが見えないよう工夫されるなど史蹟名勝の環境にふさわしい岩石公園となった。令和2年には国の重要文化財「紅葉谷川庭園砂防施設」に指定されたそうだ。解説後、全員が橋のたもとから岸辺に降り立ち、下流から上流へと歩いた。岸辺は風光明媚で心地よく、皆の笑顔もますます素敵になった。再び橋のたもとに戻ると、いよいよ橋を渡り、紅葉谷へ。





### 【12:00 紅葉谷】

遊歩道は観光客でいっぱい。美しく黄葉したトウカエデの隣で集合写真を撮影し、ロープウェー入口手前でトイレ休憩。その後、ロープウェー駅には向かわず弥山登山道を進むと観光客も少なくなり、スーパードライバーとしては少しほっとした。奥紅葉谷橋手前では当日一番のみごとな紅葉に出会い、しばし見とれた。

### 【12:20～12:30 奥紅葉谷案内板前 閉会】

紅葉谷川を見下ろしながら再び末原会長の解説があり「この庭園砂防は川に入って遊べるように設計されているので、ぜひ子ども達を連れてきて遊んでほしい。」と締めくくられた。その後、閉会挨拶、解散、公募参加者アンケートと続き、PV会員も解散となった。



四宮神社前の広場で集合写真（撮影：河野）

（ 文・写真：小川 ）

◇アンケート結果

【質問】

- ① 参加したきっかけ
- ② 行事の感想
- ③ 意見・要望等

\*\*\*\*\*

- ・①ウォーキング 40代 女性
- ・①自然に興味がある。②歴史と景観の話が面白かった。 50代男性
- ・①一に歴史、二に自然、三に身体。②もう少し歴史を。③もっと見て回りたい。 50代男性
- ・①体を動かしたい。②宮島の普段歩かないところを歩いて良かった。③9:00 集合?と聞いた気がしたが、出発 10:00 が長かった。 50代女性
- ・①体を動かしたい。②歴史がわかってよかった。③集合時間からの出発が長く寒かった。 50代女性
- ・①歴史に興味、体を動かしたい。②植生や庭園砂防について知れて良かった。③また春に企画があれば参加したい。 50代女性
- ・①体力維持のため。②普段行かない場所を見せてもらいありがとうございました。大変勉強になりました。 60代男性
- ・①宮島の自然に興味があるため。②宮島固有の動植物について知ることができ有意義であった。ユーモアを交えて楽しく聴くことができた。 60代男性
- ・①歴史に興味。 60代男性

・①秋の宮島を歩いてみたいと思っていたところに丁度記事があったので。②色々な話が聞けて良かったです。ベテランさんで良かった。③続けてください。 60代男性

・①自然の中でウォーキングを楽しみたい。 60代男性

・①自然を楽しみたい。 60代男性

・①宮島をもっと知りたいと思った。②興味深い話が聞けて良かった。③楽しい時間をありがとうございました。 60代女性

・①あまり訪れることのなかった宮島の歴史や普段なかなかな行かない所を知りたいと思った。②植物についてあまり関心がなかったのですが説明くださる方の知識が半端なく、とても楽しかったです。大満足。③今度は新緑の季節に是非また参加したいと思いました。本当に参加して良かったです。ありがとうございます。 60代女性

・①体を動かしたい。②草花の話など興味深い話が聞けて良かった。講師・テキストはとても素晴らしかった。③今まで知らなかった事とか説明してもらって良かった。 60代女性

・①歴史に興味があるから。②いつもなら通り過ぎてしまうけど話が聞けて楽しく勉強になりました。丁寧な説明で感謝です。 60代女性

・①自然・歴史に興味がある。②宮島出身だが初めてのことが多く楽しかった。③今回はありがとうございました。また参加したいです。 60代女性

・①体を動かしたい。 60代女性

・①自然(植物)に興味があり、体も久しぶりに動かしたかった。宮島が好き。②とても良かった

た。自分なりに宮島のことを分かっているつもりだったが、誓真さんや山辺の古徑にふれてためになりました。60代女性

- ・①自然（植物・野鳥など）に興味がある
- ②宮島ならではのシカと植物の関係、サクラ保護の取り組みなど学ぶことが多かった。歴史は苦手ですが、モミジも美しくとても良かった。③野鳥観察は是非やってほしい。ゆっくり時間をかけても良いので。60代女性

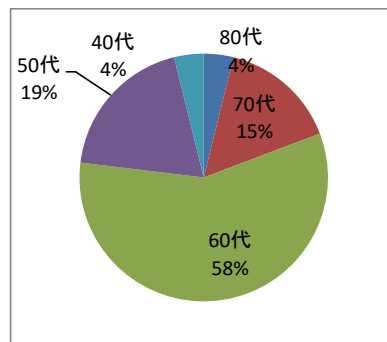
- ・①歩きながら宮島のことを知りたいと思った。
- ②楽しい話が聞けてよかった。60代女性

- ・①自然と歴史②堰堤。③次回、春の季にあれば参加したい。70代男性

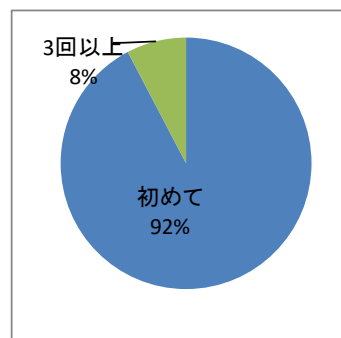
- ・①歴史に興味がある。②植物説明も良かった。70代男性

- ・①宮島の深いところを訪ねたいと思ったので。
- ②すべて素晴らしいガイドと見所でした。ありがとうございました。③次の回も案内が欲しいです。70代女性

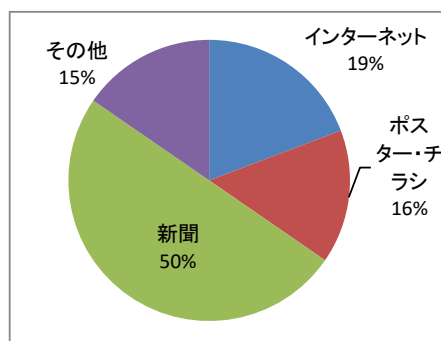
- ・①自然や歴史に興味。②山歩きはしょっちゅうですが、今回のような行程はすごく良かったです。どの人もエキスパートで解りやすく説明していただき感謝してます。80代男性



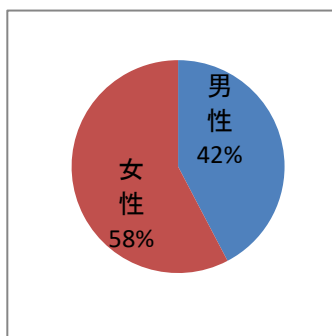
参加者の年代



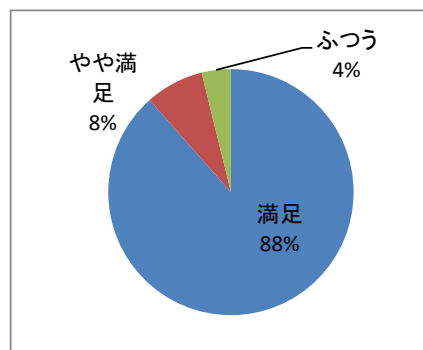
観察会参加回数



行事を知ったのは



参加者の性別



行事の感想

( まとめ 舛田 )

## 自主観察会 (5)

### 島外調査元宇品

日時：12月2日(土) 10:00~12:20

天候：晴れ

行事推進委員：小林(み)、横路

参加者：岩崎 大林 金山 北野 河野 小林(颯)

小林(み) 末原 二神 穂井田 舛田 松田

山本(昌) 横路 以上 14名

新入会員研修生: 4名

元宇品アースミュージアム自然観察ガイドの会: 4名

中国地方では元宇品でしか見つかっていない希少植物「ツチトリモチ」は、広島県絶滅危惧種に指定されている。

今日は、「元宇品アースミュージアム自然観察ガイドの会」で活動されている会員の方の案内で植物と地質と元宇品の歴史について学ぶ観察会である。この希少植物に出会うのもその目的のひとつです。



朝 10 時、桧和田会長の挨拶の後、案内をしてくださる石津さん、畑さん、佐藤さんを紹介されました。会では毎月 1 回「地球さんぽ」というタイトルで自然観察ガイドを行っているそうです。

今年のツチトリモチの生育の状況については、この夏の猛暑続きと少雨の影響で例年になく数が少ないとのことである。

ともあれ民家の傍の小道の植物を石津ガイドの説明で観察しながら出発した。

北面のやや日陰の斜面。ヤブミョウガが茂り、ヒョドリジョウゴの赤い実が目につく。しばらく進むとガイドの方の指差す大木の根元。キノコ状の 2cm くらいの赤いタマゴのような形の植物が数個生えている。今年はやはり例年より小さいらしい。



ツチトリモチは元宇品ではハイノキ科の常緑樹のクロキの根に寄生するとのこと。卵形のは花穂で表面は小根体と呼ばれる多数の柱状突起に覆われています。雌花は小根体に埋もれて表面からは見えないようです。そっと手で触って見ると堅く、根元に鱗片が数片付いている。ツチトリモチの生育地は九州や沖縄にもあり、赤色以外の種類や寄生する樹木についてパークボランティアの会の北野会員から写真で紹介があった。

常緑樹のクスノキやツブラジイ、タブノキなどの大木が茂っている道を頂上へと登る。元宇品の森は戦後伐採されることなく自然が守られて来たことが分かる。

頂上はやや広い原っぱになっている。ここには戦時中に広島湾を守るための砲台があった。砲台の台座跡について畑ガイドから詳しく説明を受けた。コンクリートの破片に遺跡の痕跡が見て取れる。

広場の傍に常緑樹の森には珍しく落葉樹のポポーノキやアベマキの大木が目を引く。アベマキは近年のカシノナガキクイムシの被害が目立つ為、薬剤などで保護対策を試みているとのこと。足元にドングリの実が沢山落ちている。



ここから南西斜面の森の中を海岸辺りに向かって進む。被爆した広島市内でもこの場所は山蔭となり、豊かな植生が保たれたのであろう。大樹が多く茂っていて原生林の面影を残す緑濃い散策道である。この小道の両側もツチトリモチの生息地となっている。やはり例年よりも小さく、ともすれば落ち葉に埋もれて見逃しそうになる。



今日の観察会のために事前に調査されたものか、落ち葉を取り除いた観察場所が数箇所ある。

ガイドの方々の心使いに感謝である。途中で木間越しに青い海と似の島、その向こうに宮島が臨める見晴らしの良い所も有る。この森には珍しく、黄葉した数本のメタセコイアやラクウショウなどの落葉針葉樹を見かける一角がある。戦後の復興時に見本樹として植えた物であるとのこと。



11時35分に宇品灯台に到着。傍に大きく枝を広げた300年を越えるであろうクスノキがそびえる。地表を這うが如く伸びている大きな根にも年月の深さが伺える。小休憩の後、海岸の歩道を主に地質観察を行いながら進む。元宇品は約6500万年前に形成された花崗岩で構成されている。その後の地殻変動や海食作用で出来た断層や海食洞が地表面に現れており身近に観察出来る。海波の力の大きさを現す海食崖。サイコロが柱のように積上がった形の柱状節理。正断層では約3メートルのズレがくっきりと見て取れる。花崗岩の面に割り込むように伸びる大小の岩脈、花崗岩に包み込まれたような捕獲岩。「アースミュージアム」そのものである。桧和田会長のガイドで地球の歴史を間近に感じることが出来た。

12時20分、初冬には暖かい日差しの中で観察会を終えた。



集合写真

( 文 : 横路 写真 : 河野 )

## 会員の集い・部会打合せ 会員研修会・懇親会

日時 : 12月9日(土) 9:00~15:00

天候 : 晴れ

場所 : etto 宮島交流館

(宮島まちづくり交流センター) 1階研修室

行事推進委員 : 松尾 森脇

参加者 : 麻生 岩崎 大林 小川 恩田 北野

河野 小林(颯) 小林(み) 佐藤

末原 中道 長村(会員発表会のみ)

二神 穂井田 増田 舛田 村上(慎)

村上(光) 森 森脇 山本(加)

山本(昌) 横路 呼坂 以上 25名

環境省:山脇保護官 内山保護官 大高下 AR 3名

全体進行、司会 (岩崎副会長)

1. 全体打合せ : 9時10分~11時00分

(1) 環境省あいさつ

・内山自然保護官

今回は、所属部会のあり方など意見交換が予定されているとのことで、皆さんの意見が広く聞けたらと考えている。活発な意見交換を期待している。

・山脇自然保護官

宮島地区パークボランティアは、活発な団体であるという印象がある。今日の会で課題を解決する場としてほしい。

### ・大高下 AR

今回、小グループでの意見交換を行い、そこで所属部会のあり方などについて議論し、その後全体で共有する場を設けたいと考えている。よろしく願います。

### (2) 末原会長あいさつ

本年5月からの新型コロナウイルス感染症5類移行と広島サミット開催もあり、宮島の観光客が増加している。10月からの宮島訪問税の徴収以降も増加傾向で、過去最大の450万人が予想される。

活動は予定どおり順調に実施できたが、会員の高齢化、夏場の暑さの影響もあって参加者数の減少や固定化も懸念している状況です。本日、所属部会の取扱いについて意見交換会を予定し、今後議論をして行きたいと思えます。

今年度募集した新規会員申込者10名は、全員体験活動に参加されている。



### (3) 活動状況報告

今年度の活動状況について会長、各部長より大きなコロナの行動制限等なく、それぞれ予定していた活動を進めることができたとの報告があった。

### (4) 小グループ意見交換会

大高下 AR から意見交換会の趣旨と進め方について説明後、①所属部会のあり方②行事(活

動)運営の進め方、それぞれの議題について、4グループに分けての意見交換会、各グループ発表・共有が行われた。



比較的若手の部会員にもっと責任を持たせて活動に幅を持たせてはどうか。また、新規会員が入会する際に、彼らに対して宮島の環境や歴史についてしっかりと伝承し、育てていく必要があるのではないかなどの意見が出された。



### 2. 部会打合せ : 11時10分～11時45分

各部会に分かれて、今年度の活動振り返りと来年度の活動計画を協議した。

### 3. 全体会議 : 11時45分～12時

各部会で協議した内容について各部長より報告

### 4. 集合写真撮影と昼食 : 12時～13時



etto 宮島交流館 1階テラスで五重塔・千畳閣をバックにして記念撮影

5. 会員発表会 : 13時～15時

麻生会員による「会報誌みせんのあゆみ」という演題での発表でした。会報誌みせんの各号のこれまでの貴重な資料や写真などが丁寧にまとめられており、受講者は会報誌みせんの歴史を感じることができ、とても勉強になりました。麻生会員から「行事推進にあたり昔は明確なテーマがあったが、近年はテーマ性が薄く1回きりの行事も多い。」などの鋭い指摘もあり、過去に記念誌編纂に携わった経緯・経験なども広く話をしていただき、とても奥深い内容でした。



6. 年末懇親会

恒例の年末懇親会を紅葉谷公園の山村茶屋で行い、おいしい焼牡蠣、おでんなどの食事とお話で、和気藹々と楽しく過ごしました  
(懇親会参加者 17名)



( 文 : 森脇 写真 : 河野 )



## 弥山登山道清掃作業

日時：12月16日（土）9:00～12:30

天候：曇り一時霧雨

行事推進委員：猪谷、三戸

参加者：岩崎 大林 河野 末原 兎谷 長村 穂井田

三戸 村上(慎) 吉賀 以上10名

新入会員研修生：5名

前日から雨が降り、気になっていた天気。当日朝6時のNHK天気予報では降水確率20%で「晴れか!」と思っていたのにくもりで残念。

集合場所に到着すると、今日は強風のためロープウェーが運休していると聞きました。当初の清掃作業予定（ロープウェー→獅子岩→弥山頂上→里見茶屋跡）を大幅に変更して、登山道大聖院コースの仁王門まで登って、2グループに分かれて下山しながら清掃しようということでした。仁王門まで登るのだったら、「もう弥山登山だな」と少し動揺しましたが、結局、里見茶屋跡まで登って2グループに分かれ、8名はそこから下山しながら大聖院登山口まで清掃。健脚組の7名はさらに幕岩付近まで登ってそこから下山しながら里見茶屋跡まで清掃しました。

雨上がりの清掃作業はカラカラに乾いたときの作業に比べると、濡れ落ち葉が石に貼り付き、なかなか厄介なものでした。登山する人から「お疲れさま」の声に励まされ頑張りました。12時過ぎに大聖院登山口で2グループが合流し、全員で集合写真を撮って解散。

清掃作業中の天気は一時霧雨も降り、太陽はいつでも顔を出してくれませんでした。



第1班出発（幕岩に向けて移動）



第2班清掃作業



第2班清掃作業（滝宮神社付近）



集合写真

( 文 : 三戸 、 写真 : 河野 )

## 自主観察会(6)新春弥山登山

日 時 : 1月8日(月) 9:00~14:30

場 所 : 紅葉谷~弥山~大聖院

天候 : 曇り

行事推進員 : 元広

参加者 : 岩崎 北野 河野 小林 (勅) 末原

穂井田 増田 森 以上8名

新入会員研修生 : 5名

この日は、曇り空で気温は低かったのですが、風がなかったので、それほど寒さを感じることは無い天候でした。

宮島に渡るフェリーには多くの登山客がいて、また、宮島栈橋広場にも多くの登山客があらちらに集合していて、中には集合写真を撮るグループもありました。

9時に点呼の後、末原会長から資料を使って紅葉谷コースの砂防堰堤の説明、並びに、岩崎会員から本日の目的の一つのミミズバイの生育調査の説明を受けて出発しました。



【出発前のミミズバイ生育調査の説明】

岩崎会員から紅葉谷公園の中ほどにある丁石の起点の石標から弥山山頂に至る参道と弥山山頂から大聖院までの参道の丁石の説明が随所であり、また、不明になった丁石を探して元の位置に設置した苦労話もありました。



【紅葉谷公園の丁石の起点石標の説明】



【ミミズバイ生育調査①】

増田会員から弥山本堂横の錫杖の梅と境内の時雨桜復活の話があり、また、時雨桜復活を記念して「聖乃志久礼（ひじりのしぐれ）」と名付けられたお菓子が作られた話もありました。弥山山頂からの下りでは干満岩の説明もありました。



【大聖院への参道下りでの丁石などの説明】



【錫杖の梅の説明】

ミミズバイの生育調査は昨年に引き続き 6 本の木で行いましたが、1 本は通り過ぎて引き返すハプニングもありました。調査中に、興味を示された登山者からの問いに皆さん丁寧に答えられたので、初めて知る植物名や自然環境の変化に関心を示されておられました。



【時雨桜】



【干満岩の説明】

研修生を中心とした会員への各所での説明とミミズバイの生育調査で、多くの登山者に追い越されて弥山山頂には予定よりも1時間近く遅れて12時20分の到着となりました。弥山山頂は思いのほか空いていて食事場所に困ることなく、ゆつたりと昼食を取ることができました。

12時50分に山頂を出発し、大日堂を経て仁王門に出て大聖院に下りましたが、途中で弥山山頂へ水を供給する取水口の見学もしました。昼食時間を短くした事で、大聖院ルートに登山口にはほぼ予定通りの14時20分頃無事に到着し、ここで解散しました。皆様、お疲れさまでした。



【弥山山頂で全員集合】

( 文：森 写真：河野 )

ミミズバイ生育調査 :

昨年 生育地点の最高標高となるミミズバイを見つけることが出来ましたが、幼木(樹齢4年くらい)が順調に生育していることを確認し安心。①は本体部が枯れ脇より新枝が伸びていました。

( まとめ： 岩崎 義一 )

名称	番号	樹高 (cm)	幹周 (cm)	場所	標高 (m)	前年樹 高(cm)	前年幹 周(cm)
新発見	①	29.5	2.0	尾根下 右側	388	25	1.6
大黒天	①	76	5.0	大黒天上 左側	385	121	5.0
15号	②	60	6.2	15号堰堤上 右側	370	53	6.0
大岩下	③	192	12.2	14号堰堤上 右側	350	188	10.3
13号上	④	360	14.5	13号堰堤上 右側	330	317	11.5
13号	⑤	265	8.0	13号堰堤上 右側	320	260	7.2
天然橋	番外	410	19.0	-	-	380	17.5

## \*\*\* 投 稿 \*\*\*

## 宮島町町家通りの行灯



ジョウビタキ 雄・雌



シジュウカラとクマノミズキ

棧橋から住宅街の道路に入るとかねてから「町家通りの行灯」が飾ってあって、すっかり馴染みになっていますが、デザインがこの度変わりました。

「宮島にいる野鳥と植物」をテーマにされた絵画となっています。

全部で50基あります。4月末頃までの展示だそうです。また、「ぎやらりい 宮郷」では、行灯の鳥さんたちを作品に仕上げ、4月4日から9日まで展示されるそうです。

2つの写真は、实例のほんの一部です。

宮島を本拠地として活動している私達は、地域の方々が盛り上げようとしていらっしゃる表通りの様子をゆっくり鑑賞しては如何でしょうか。

著者は「佐古百美（さこももみ）」さん。ご本人は東京出身で広島市内に在住し、日本野鳥の会会員です。

東京学芸大学美術教育学科卒業。可愛いくて夢のある絵本も多数発行され、お子さんにも大人の方にも喜ばれています。

（文：大西順子）

## ◇ 編集後記 ◇

12月9日の研修会の発表担当になり、テーマ選定として最初は私の仕事に関係したことにしようかと思ったが、広報担当なので会報誌みせんの紹介に決めた。

発表時間を考慮して表紙に絞り準備。1号から93号までを紹介して枚数がやや多い119枚。これをきっかけに宮島PV活動への理解がさらに深まればと思う。

（麻生）

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方  
環境事務所 広島事務所  
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号  
広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455